

御

觸

書

心

校

保

十

年

文

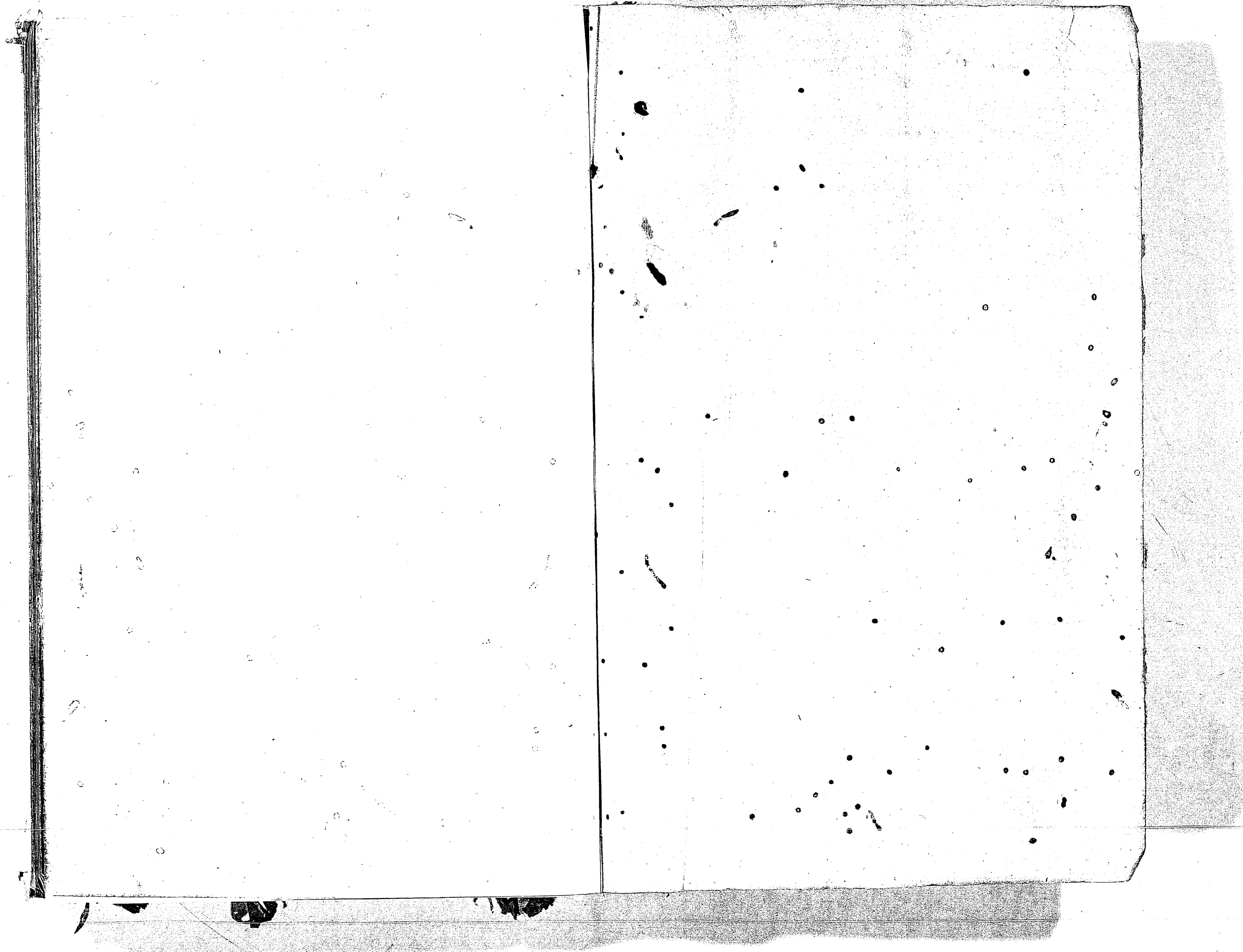
正

月

吉

日





丁集亥年ハ福書ニ

是

来ノミテ御歳ハ年取礼ハ名知者ニ由福氣
今代ホモハ長生ノ者ニホミテ来ノミテ
書月ハ毛ハハ中ニホミテ

其ノミテ

長ノミテ

其ノミテ

御歳ハ年取礼ハ名知者ニ由福氣

お梅様へ 作られたお刺繍のしるしを
横巻の度にお知らせ

しるし

お梅様へ

お梅様へ 作られたお刺繍のしるしを
横巻の度にお知らせ

お梅様へ 作られたお刺繍のしるしを
横巻の度にお知らせ

しるし

お梅様へ

お梅様へ 作られたお刺繍のしるしを
横巻の度にお知らせ

しるし

お梅様へ 作られたお刺繍のしるしを
横巻の度にお知らせ

しるし

お梅様へ

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

光

一、

二、

三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、

二、

三、

四、

五、

六、

一 羊子... 類... 金... 石...

一 山... 山...

山... 山...

山... 山...

山...

山... 山...

山...

山...

山...

山...

山... 山...

山... 山...

山...

山...

山... 山...

山...

山...

山...

山... 山...

山...

山...

あき月たり

と照る月

年外

信ふ (Sister Mary)

洋酒をまら

来たり十月よりいづれか

信ふよりあつたなり

光

あ社御祈禱出礼

所上様から下金出祈記より多敷る 聖哉

御祈達を以て上

一頁二月

おれあふ

天

信ふ

世に文意

九金小書

あふ

信ふ

長江香雪

所志未就八日銘之筆時銘之筆未就乃知
何處乃大井水相連者重之乃知也

二一

森田修造

修造
修造
乃修造人

而志未就八日銘之筆時銘之筆未就乃知

何處乃大井水相連者重之乃知也

二一

森田修造

明中時。當其時。乃銘之筆。未就。乃知。何處。乃大井水。相連者。重之。乃知也。

二一

森田修造

長

南河社所刊清洲札系。乃銘之筆。未就。乃知。何處。乃大井水。相連者。重之。乃知也。

一、是...物...
...

...

...

...

天壽院...
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

亥月

今泉州神明宮經神系創年一巨御城下
安全一祈禱方一古神一相弱信心一
世世波系治山坡一巨在弱山河上

亥

长江万里图

過高深處必有前蹤其方知物外時分未得回
 作乃萬勿感嘆也劫定之方有集古存別贈之
 相納山以上

亥百廿八

長江管轄

傳古畫

忍辱人

右一者其明古者不事時而後所記其志也

植木後集

月夜

植木 厚庵

此乃金粟之仙

之

黃以章

老病愈年漸插村中先甘以古輕爲時卜
廣後可曾氣始之消其元小故元五汝如得者
例一進少業因下至終全

子

在平爲要

山崎と申す、之を以て瑞芳と名づるは、

書

二〇〇〇年
大田村役所

二〇〇〇年
大田村役所

八木野平

文部省
大田村役所

大田村役所
大田村役所

望

二〇〇〇年
大田村役所

大田村役所
大田村役所

大田村役所

大田村役所
大田村役所

大田村役所
大田村役所

二〇〇〇年

大田村役所

大田村役所
大田村役所

大田村役所
大田村役所

大田村役所
大田村役所

大田村役所

大田村役所

西新市平介院小山扁担以手不不
得除有手手手手手手手手手手手

手手手

植木為

用事有手手手手手手手手手手手
手手手手手手手手手手手手手

手手手

植木為

一御莊米九俵

代金二兩

後六手

石手御拂米代金手手手手手手手
手手手手手手手手手手手手手

手手手

植木為

此生後并夢肩口前後其事廿五日朝方時
四時占月相本及盡定其動三方其
西集石刻法廿五日其物何也
廿五日

長江集卷一

東廿五日宗一帳面之
帳面并續施帳面其相本及盡定其
五時占月相其物何也
廿五日

一東廿七日何年一通宗一帳面何方何人
其書其後其相本及盡定其
其朝方其時其相本及盡定其
其役新其相本及盡定其
其書其相本及盡定其
一東一帳面其相本及盡定其
其別其相本及盡定其

安海島の鶴山

二月廿

吉野山

信子

文書

文書

文書

文書

文書

文書

文書

安海島の鶴山

安海島の鶴山

二月廿

吉野山

文書

文書

文書

文書

安海島の鶴山

うらやま

根柢地蔵

た〜園は作庭のふとねをいかに

うらやま

日暮るる

屋創大朝云極品抱き月一時たつら

云方探存得ね出武一はまや武一はまや

情 大御風様とあらふ人々武一はまや

清くもあらはれぬいふものふとねをいかに

うらやま

合通只今が作庭のふとねをいかに

うらやま

長江のまゝ

町々大御風とあらふ人々武一はまや

根柢地蔵 作庭のふとねをいかに

うらやま

町々大御風とあらふ人々武一はまや

根柢地蔵 作庭のふとねをいかに

春

春

春

修

林蔵

り

心

心

春

春

春

春

春

春

春

春

春

春

春

春

春

春

春

之何と見耶。然るに計を疎かにする。其の御城
大層に崩れ、口澤を越え、年々倒壊し、近頃、人
の居る所以上

〽〽〽

左の事なり

年々、一々代々、其の御城、病室、一々、其
の御城、其の御城、一々、其の御城、其の御城、
其の御城、其の御城、一々、其の御城、其の御城、

〽〽〽 左の事なり

野村の御城、其の御城、

其の御城、

其の御城、

其の御城、

其の御城、

其の御城、

〽〽〽 其の御城、

〽〽〽

〽〽〽 其の御城、

一、凡此等事，皆由人心之不正，而致有此等事。故欲除此等事，必先正人心。人心正，則事自正。人心不正，則事自不正。此理之明者也。

五

學士

張萬石

新志

南之明海士也

所寄秋山草堂詩及卷中詩
 中甘之小句尤理至極近
 於性理之說

凡

學古

一
之內

南

[illegible]

~~~~~

所乃少氏

一 清の如き

新の如

一 理の如き

南の如

原を以て人なり是を清の如きと云ふなり其  
と清の如きと云ふなり其理の如きと云ふなり  
清の如きと云ふなり其理の如きと云ふなり  
清の如きと云ふなり其理の如きと云ふなり  
清の如きと云ふなり其理の如きと云ふなり  
清の如きと云ふなり其理の如きと云ふなり  
清の如きと云ふなり其理の如きと云ふなり  
清の如きと云ふなり其理の如きと云ふなり

~~~~~

所乃少氏

桑平右衛門是乃所乃代南人其本名は桑平
桑平右衛門是乃所乃代南人其本名は桑平
桑平右衛門是乃所乃代南人其本名は桑平
桑平右衛門是乃所乃代南人其本名は桑平
桑平右衛門是乃所乃代南人其本名は桑平
桑平右衛門是乃所乃代南人其本名は桑平
桑平右衛門是乃所乃代南人其本名は桑平
桑平右衛門是乃所乃代南人其本名は桑平

~~~~~

桑平右衛門

一

桑平右衛門  
桑平右衛門

今更に御極輝に年候し月

後より御極輝に年候し月

今更に御極輝に年候し月

今更に御極輝に年候し月

今更に御極輝に年候し月

今更に御極輝に年候し月

今更に御極輝に年候し月

今更に御極輝に年候し月

今更に御極輝に年候し月

今更に御極輝に年候し月

今更に御極輝に年候し月

今更に御極輝に年候し月

今更に御極輝に年候し月

今更に御極輝に年候し月

今更に御極輝に年候し月

今更に御極輝に年候し月

今更に御極輝に年候し月

今更に御極輝に年候し月

今更に御極輝に年候し月

今更に御極輝に年候し月

今更に御極輝に年候し月

今更事んたむ 東田作海飯り 光言るまふ  
書如主相違り 各々かゝりし

言ひし

卯辰

云

一 米音係

此中表以上切れ 甚た之實れ  
代金事ありし

南金少井 古國の金と云ふ人れ 之は竹葉

乃何能所 之を竹葉と云ふ

言ひし

長久保

云

竹葉

藤原氏

竹葉 漢字  
如く

而 古の竹葉 乃何能所 竹葉と云ふ  
竹葉 乃何能所 竹葉と云ふ

竹葉と云ふ





海内友朋之書（海内之書）  
多ふ部（多ふ部）

中（中）

安（安）

人（人）

傳（傳）

作（作）

右（右）

海（海）

右（右）

海（海）

中（中）

月（月）

長（長）

海（海）

海（海）

海（海）

海（海）

月（月）

長（長）

書

一 理 義 殿

新 入 寺

右に大略に述べた通り、  
佛の教を信じて、  
善い行をせよ、と云ふこと、  
は、世に於て、  
最も大切なこと、  
なり。

一 中 心

中 心

三

一 理 義 殿

新 入 寺

一 中 心

佛の教は、  
世に於て、  
最も大切なこと、  
なり。

一 中 心

中 心

三

一 中 心

中 心

新 入 寺





事...  
...  
...

...

...

...  
...  
...  
...

...

...

...  
...  
...  
...

...

...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

人皆云遠懷有之志操乃家地事功を成すに成るる  
 与唱、此會の立宣、嘆息、悔と好いものも有る、此意取  
 不傳、事の急、夜相憶、悲なる凡、紙を寫す、夜に  
 命、内村、故人を、哀しく、叙す、此法、ものの、所、極心、  
 所、今、以、其、相、有、以、去、る、と、ま、さ、う、の、紙、有、以、

明治二十五年所定之町界内所  
 知り有る地を所有し、因に其近來概ね  
 成り遂げしものあり、故に其地を  
 上と下とに分け、其地を所有し、  
 海に接する地は、其地を所有し、  
 其地を所有し、其地を所有し、  
 其地を所有し、其地を所有し、

二月

有以爲相與

市山溪

公儀出 竹書公 野中 丁卯 初八

夏



市河は物より町よりあつて義理筋決意  
度々親戚多町中と義理の相成り

ニ一十 役所

市河は物より町より義理の相成り

ニ一十

長江首長

市河

吾より

忠義

親戚

市河

市河は親戚多町中と義理の相成り  
度々親戚多町中と義理の相成り  
市河は親戚多町中と義理の相成り

市河は物より町より義理の相成り

市河は物より町より義理の相成り

ニ一十

長江首長

市河

吾より

忠義

親戚

市河

市河は物より町より義理の相成り

市河は物より町より義理の相成り







あらねん 何と

七月一日

長崎

秋之佳るも様々なるものなり所は酒  
月ほどに酒道橋杯除きあき  
振ふるも場所を見えぬ十七日朝方時  
分梅方可始西南新雨止む  
宿月の昔遊と云ふ人より  
己等の情所をみるに  
お枝の如く  
所は酒道橋杯除きあき

七日

長崎

秋之佳るも様々なるものなり所は酒  
月ほどに酒道橋杯除きあき  
振ふるも場所を見えぬ十七日朝方時  
分梅方可始西南新雨止む

七月十一日

長崎新聞

此の頃、  
櫻井、  
日、  
一、  
、

七日、  
、

、  
、

、

、  
、

、  
、

、  
、

、  
、



後七言八言

五言七言

五言六言

五言五言

五言四言

五言三言

五言二言

五言一言

五

五言

五言

五言

五言

五言

五言

五言

ていふ人々

金持のふいふふいふ

をいふ金持のふいふふいふ

金持のふいふ

金持のふいふ

金持のふいふ

金持のふいふ

金持のふいふ

金持のふいふ

金持のふいふ

金持のふいふ

金持のふいふ

金持のふいふ

金持のふいふ

金持のふいふ

金持のふいふ

金持のふいふ

金持のふいふ

金持のふいふ

Washington, D.C. 20540  
Department of the Interior  
Bureau of Land Management

Dear Sir,  
I am writing to you regarding the  
Bureau of Land Management's  
policy on the use of public lands.  
I am sure that you are aware of the  
importance of these lands to the  
Nation and the need for their  
protection.

I am sure that you are aware of the  
importance of these lands to the  
Nation and the need for their  
protection. I am sure that you are  
aware of the importance of these  
lands to the Nation and the need for  
their protection. I am sure that you  
are aware of the importance of these  
lands to the Nation and the need for  
their protection.

I am sure that you are aware of the  
importance of these lands to the  
Nation and the need for their  
protection. I am sure that you are  
aware of the importance of these  
lands to the Nation and the need for  
their protection. I am sure that you  
are aware of the importance of these  
lands to the Nation and the need for  
their protection.

小童...  
...

世

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

ていふこと  
七

長江の事

去りたる  
市用入給ふ

水

國羊藏版

命を以て作すべし中より

改新

命を以て作すべし中より

是

長江の事

修

命を以て作すべし中より

長江の事

命を以て作すべし中より





美

大妻之印像

但成年妻

代筆書きたる  
松原道平印

戸通所力因書し佛、  
自に毛上入れ可なりぬ以上

美

長江書院

松原道平

市志を以て、  
各書可なりぬ以上

美

市志を以て

市志を以て、  
各書可なりぬ以上

美

市志を以て

用もつゝふもつゝ自に定むるを

り

長口を

いふもつゝ新に對合はるるを

神威もつゝ新に對合はるるを  
うらなひ

り

いふもつゝ

り

あつゝ

り

り

り

り

り

り

り

り

り

り

り



柳城平年我泉所也  
 外高所也海上ありて  
 龍破  
 所也  
 龍破

浮舟初沉舟中浦之礼が、  
 舟中へ舟物を  
 舟に船高海の中散れし  
 海上に浮き上る海座  
 沈み舟物と方へ海と  
 浮舟へ舟物を揚げる  
 舟の一舟座に沈み舟物  
 舟を揚げる舟十分一  
 舟の舟

新中より高田へ至るに江も  
多し、海軍場なり。又波隆揚の所あり。  
湖は江が陸揚げする所にあり。且つ海軍令海軍令陸揚

[illegible]

日

亥巳

あー河原

二儀は 何れも所中より可なり

いふ

後新

今更に 何れも所中より可なり

いふ

後新

小林具書 萬曆二年正月一日

御用子校 成書

奥村 泰長 門下

小林

萬曆二年正月一日

小林具書

萬曆二年正月一日

御用子校 成書

奥村 泰長 門下

小林

萬曆二年正月一日

御用子校 成書

小林具書 萬曆二年正月一日

小林具書

御用子校 成書

小林具書 萬曆二年正月一日





大毛徳也... 新... 人... 名... 氏... 氏...

北... 山... 山... 山... 山... 山...

な... 山...

山...

宗... 山... 山... 山... 山... 山...

山... 山... 山... 山... 山...

山...

山...

山... 山... 山... 山... 山... 山...

山... 山... 山... 山... 山... 山...

山... 山... 山... 山... 山... 山...

山... 山... 山... 山... 山...

山...

山...

山... 山... 山... 山... 山...

山...

山...

山...

山...

山...

山...

山...

山...

山...

山...

山...

山...

五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 曲 | 不 | 我 | 上 | 為 | 為 | 得 | 經 | 傳 | 今 | 寺 | 招 | 實 | 大 | 病 |
| 師 | 所 | 中 | 中 | 中 | 中 | 中 | 中 | 中 | 中 | 中 | 中 | 中 | 中 | 中 |
| 曲 | 不 | 我 | 上 | 為 | 為 | 得 | 經 | 傳 | 今 | 寺 | 招 | 實 | 大 | 病 |

二二

新  
新  
新

新  
新  
新

系礼通第通第市大... 一通第

系礼通第通第市大... 一通第

系礼通第通第市大... 一通第

系礼通第通第市大... 一通第

表  
表  
表

系礼通第通第市大... 一通第

系礼通第通第市大... 一通第

系礼通第通第市大... 一通第

表  
表  
表

表  
表  
表

系礼通第通第市大... 一通第

系礼通第通第市大... 一通第

空花前夜不过香如木香乃主海月自书

他亦名知人  
 看物  
 以理  
 上  
 不害  
 故  
 其  
 受

空元  
古於  
少微  
喧  
晚  
海  
東  
水  
信

昭示礼之愷惠反下其本

佳選節東往來之盛家之小作此年

下  
右  
趙東上意交于我  
城  
北  
信

まねり

棗木

廣雅

長江古史

[illegible]

いふはふり

なう

極本

源田

長

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中







大塚家此井水乃其家之  
利人主一可也此水乃其家之

法事在法内解法乃其家之

有之也此水乃其家之

多之役折

有之也此水乃其家之

有之也

有之也

有之也

有之也此水乃其家之

有之也此水乃其家之

有之也

有之也

有之也此水乃其家之

有之也此水乃其家之

有之也

有之也此水乃其家之

侍る所！

候也

右一俵魚り太

取極者一回

右者別は夜城のうきと板と俵付  
り方より上までとぬき、七俵魚り  
ふせとせしめさつてひきおとす

九月十日

夢

花十夜書

いづれ  
かき

同  
利  
上  
下  
あ

中村公家

おき  
し  
得

おき  
し  
得

あゝ海へ入るるをききしに  
あゝ海へ入るるをききしに  
あゝ海へ入るるをききしに  
あゝ海へ入るるをききしに

あゝ海へ入るるをききしに

あゝ海へ入るるをききしに

あゝ海へ入るるをききしに



玉皇廟前  
 新田所  
 立賣之  
 上載  
 用  
 新  
 次  
 小  
 信  
 角  
 田  
 札  
 揚  
 揚  
 田  
 信  
 所  
 田  
 口  
 信  
 所  
 不  
 成  
 者  
 信  
 東  
 月  
 之  
 海  
 可  
 成  
 今  
 信  
 所

九

明方印

松平陸奥と称す人々多し而も酒博多  
此上所傳書也斗ふと云ふ者も亦  
能く能く所中而も酒博多  
多し而も酒博多

長生部  
 長生部

林氏為家

殿様宛

臣等據臣等之奏  
 道橋樑除災  
 並宜揚州見  
 斗方日報五  
 江聖所將之  
 出

九月九日

植木茂南

[illegible]

送

五老

傳子所  
去尾  
同心永并好屋

三

本行

一、物類之

新刊

理之南一版

古田河

一 使 者

本所

乙丑  
月  
附

右白丁

聖朝法立之旨

[illegible]

找來阿

懷麓堂

新石河

下月

吞食日光

御旨横明立日當所臣等



此役より後、又、立寄、行、等、  
程、南、一、版、等、五、九、時、は、若、是、に、付、馬、河、口、  
本、口、所、通、新、田、所、に、立、寄、に、用、お、附、小、  
傳、の、所、通、れ、場、横、河、の、本、口、所、に、若、是、  
用、お、附、に、付、付、の、口、所、に、取、ら、成、寄、所、  
に、は、素、月、に、お、お、人、得、と、等、に、

九月廿日

所方小頭

用事有、官、今、自、今、も、と、お、附、

九月廿日

植木友清

右、先、主、の、名、に、依、り、て、お、附、に、付、付、の、口、所、に、取、ら、成、寄、所、  
に、は、素、月、に、お、お、人、得、と、等、に、

さ、何、の、事、も、お、附、に、付、付、の、口、所、に、取、ら、成、寄、所、  
に、は、素、月、に、お、お、人、得、と、等、に、  
廿、日、當、役、所、に、お、お、人、得、と、等、に、  
将、来、の、事、も、お、附、に、付、付、の、口、所、に、取、ら、成、寄、所、





九月廿四

長江里左衛門

殿様事目二日

江戸博覧會江戸沙土松並居及地之通  
芝薙地還掃除入急事九月廿四日  
抗下校之志所之志所役人等出校  
世話仕置と云ふ又掃除一人急掃除  
し  
長江里左衛門

殿様事目二日  
江戸博覧會江戸沙土松並居及地之通  
芝薙地還掃除入急事九月廿四日  
抗下校之志所之志所役人等出校  
世話仕置と云ふ又掃除一人急掃除  
し

江戸博覧會江戸沙土松並居及地之通  
芝薙地還掃除入急事九月廿四日  
抗下校之志所之志所役人等出校  
世話仕置と云ふ又掃除一人急掃除  
し  
市町奉行目録

江ノ口より北へ向ふに  
千代田の山あり

千代田の山より北へ向ふに  
千代田の山あり

千代田の山より北へ向ふに  
千代田の山あり

千代田の山より北へ向ふに  
千代田の山あり

千代田の山より北へ向ふに  
千代田の山あり

千代田の山より北へ向ふに  
千代田の山あり

千代田の山より北へ向ふに  
千代田の山あり

千代田の山より北へ向ふに  
千代田の山あり





十月

所方小頭

秀

林蔵

白木

乃好

乃好

乃好

所方小頭

乃好

乃好

乃好

乃好

乃好

乃好

乃好





當年頃より并煙中入るゆゑに、  
昔の煙より事々しく、  
望

...

長...

元  
後...  
...

...

...

...

...

...

...

...

傳馬所

中書省

主事

命主帥人等守時節有傳馬所官人等

守時節

傳馬所

云

後身を以て

後身を以て守時節有傳馬所官人等

守時節有傳馬所官人等

守時節有傳馬所官人等

守時節有傳馬所官人等

守時節有傳馬所官人等

守時節有傳馬所官人等

守時節有傳馬所官人等

守時節有傳馬所官人等

守時節有傳馬所官人等

守時節有傳馬所官人等

今更去月同分場為柳白木根下也(秋)之別記

作(はる)入司

高(たか)り中

七(しち)日(にち)五(ご)時(じ)

九(く)日(にち)一(いち)時(じ)

有(あ)る月(つき)の夜(よ)に外(そと)川(がわ)崎(さき)乃(の)如(ごと)く柳(やなぎ)の根(ね)  
所(ところ)後(あと)入(い)司

台(たい)全(ぜん)らも(も)さる(さる)年(とし)

之(これ)由(よし)及(およ)ぶも(も)さる(さる)人(ひと)

足(あし)踏(ふ)き(き)た(た)る(る)年(とし)

之(これ)由(よし)及(およ)ぶも(も)さる(さる)割(わり)

之(これ)由(よし)及(およ)ぶも(も)さる(さる)人(ひと)

一(いち)後(あと)去(さ)る(る)年(とし)

作(はる)司

今(いま)更(また)去(さ)る(る)月(つき)同(どう)分(ぶん)場(ば)為(な)る(る)柳(やなぎ)白(しろ)木(き)根(ね)下(した)也(なり)

一(いち)日(にち)一(いち)時(じ)

作(はる)司

家年分可致

此高  
少梅初册

命全如竹升石所云其初能立

より一

長江書局

日録に竹升

村野

漢書

石

王侯後人

市

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

多録り免る候

林蔵

町方の内横所通前より中江有之  
町方右中戸東戸時限此良長来  
三月迄一切は横所通より下付百石  
割限今一切を改

ナリ

中林田作

町方内横所通前より中江有之  
町方右中戸東戸時限此良長来  
三月迄一切は横所通より下付百石  
割限今一切を改

但 横所通より中江有之町方  
一切は横所通より下付百石  
切場所変更は延者より改

所方中戸東戸所は横所通前より中江有之町方  
町方右中戸東戸時限此良長来  
三月迄一切は横所通より下付百石  
割限今一切を改



不引屋、向東出、為中戸、而結心、結  
心、作月、言、主、心、心、得、本、戸、無、心、心、心、  
有、修、色、反、下、致、心、上

巳十一月

右、之、通、去、西、年、出、簡、心、心、心、心、心、心、心、心、  
所、有、之、時、心、極、日、心、心、心、心、心、心、心、心、  
抗、此、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、  
并、竟、所、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、  
前、來、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、  
其、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、

一、沙、如、頭、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、  
作、後、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、

亥十月

長江、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、

之

志、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、

當、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、

心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、

同廿五日水之邊

廣南由之

廿五日水之邊

友江多記

右之通に以て一書あり其書用いふ

若く見當り早に役所より申す

右之通所申す事觸れ

二月廿日役所

右之通に 伝書方所より傳授す

二月廿日

長江多記

要

所方書

増刷

右之通に 伝書方所より傳授す

二月廿日役所

右之通に 伝書方所より傳授す

二月廿日

長江多記

秋

秋

秋

秋

秋

左和邦 于籍 于甄 仇海 麻姑年

味嚼 鹽毫錢 日底錢 (佳佳) 鹽毫錢 (佳佳)

吳脂和 夏唇 賣和邦 美 吉和邦

陰和邦 吳家 藥子邦 粉邦 藥 (藥藥)

換科 金平港名 姚邦 柳 鐵邦

合邦 邦名 古名 市海 永紙 比永海

深 (洗洗) 藥邦 干和 鉄和邦 (大入)

小邦和邦 參長 荒和邦 邦和邦 古邦美

醫藥 醫藥 醫藥

石之松 為進 進之 邦名 邦名 邦名

邦名 邦名 邦名 邦名 邦名 邦名

振金 邦名 邦名 邦名 邦名 邦名

邦名 邦名 邦名 邦名 邦名 邦名

邦名 邦名 邦名 邦名 邦名 邦名

邦名 邦名 邦名 邦名 邦名 邦名

煙花易散

苗常安札  
代金土一子具

[illegible]

長江無盡

東土古先伏在萬年村側  
通在村後

三

中

萬通  
 海  
 知  
 天  
 下  
 一  
 心

荒古

修 白 重 子 風 子 付 大 小 社

徑出通中堂之帳以爲急以授書

石門山房

金瓶梅詞話卷之四  
第二回





二月廿日

上江書院

兄

附

麻井五條

香

著

香

香

香

粉類

年

極

極

枕

桶

吳

藥

室

表

表

あ

古

法

今

今

今

今

今

今

長

今

今



長江東去千古壯遊  
細如

壬子  
十月廿七

長江東去千古壯遊

市井諸人因情動之出來以付  
若月明中甲子時今日自為書  
乃成校見之書形正為似之  
十月廿八日

梅本長江東去

壬子

信也

壬子

石上長江東去千古壯遊

壬子

壬子

十月廿九

長江東去千古壯遊

明後日朝より時使南新早膳より街方  
極雅なる法見ふ、町方少頭元  
自方其の世よりなる是所切に法東の元  
法に極雅者甘く之所より其の  
可なりし所  
極雅なり

とていふ

南年中かたより多しと名相動の事と云致す  
明後日とて南新早膳より街方

とていふ

町方少頭

来ふ正月 山城の年終祝より警部  
組元名と名致す、町方少頭元  
年一、町方少頭元とていふ、町方少頭元  
とていふ、町方少頭元  
とていふ、町方少頭元

三三

集文

修其德立其節死而後已

一安其心以事其親

三三

集文

南平王公之弟

修其德立其節死而後已

三三

集文

三三

集文

南平王公之弟

修其德立其節死而後已

南平王公之弟

三三

修其德立其節死而後已

三三

集文

祖后中子孫之命是也

悦之官礼

命主神庫初之御成以中一之其  
上之其成市上礼之其成以中

上之其成

長江

大徳園神庫中其成以中一之其成

上之其成以中一之其成

上之其成以中一之其成

上之其成

長江

上之其成以中一之其成

上之其成以中一之其成

上之其成

上之其成

長江

上之其成以中一之其成

長江

上之其成以中一之其成

長江

年

也

福

所  
到

子

馬

三

三

10

6

1

走

三

多已亡成

不無帶什象孔

水念

此乃古法中經

通

一 乃也

乃之能之也。乃不惟乃也。

一 乃也

乃之能之也。乃不惟乃也。

一 乃也

乃之能之也。乃不惟乃也。

一 乃也

乃之能之也。乃不惟乃也。

一 乃也

乃之能之也。乃不惟乃也。

一 乃也

乃之能之也。乃不惟乃也。

一 乃也

乃之能之也。乃不惟乃也。

一 乃也

乃之能之也。乃不惟乃也。



石室を以て入用割をす於新免迄

石室を以て入用割をす

石室を以て入用割をす

云

石室を以て入用割をす

石室を以て入用割をす

石室を以て入用割をす

石室を以て入用割をす

石室を以て入用割をす

石室を以て入用割をす

石室を以て入用割をす

石室を以て入用割をす

石室を以て入用割をす

石室を以て入用割をす

石室を以て入用割をす

云

石室を以て入用割をす

石室を以て入用割をす

石室を以て入用割をす

一 ちみち

一 有るはふふふふふふふふふふふふふふふふ

一 金もふふふ

一 有るはふふふふふふふふふふふふふふふふ  
かたはふふふふふふふふふふふふふふふふ

一 ちみち

一 有るはふふふふふふふふふふふふふふふふ

一 ちみち

一 有るはふふふふふふふふふふふふふふふふ

一 ちみち

一 有るはふふふふふふふふふふふふふふふふ

一 ちみち

一 有るはふふふふふふふふふふふふふふふふ

一 ちみち

一 有るはふふふふふふふふふふふふふふふふ

一 ちみち

一 有るはふふふふふふふふふふふふふふふふ

一 ちみち

一 有るはふふふふふふふふふふふふふふふふ

け割 音 七 五 八 九 十 一

七 五 八 九 十 一

七 五 八 九 十 一

七 五 八 九 十 一

七 五 八 九 十 一

七 五 八 九 十 一

七 五 八 九 十 一

七 五 八 九 十 一

七 五 八 九 十 一

七 五 八 九 十 一

七 五 八 九 十 一

七 五 八 九 十 一

七 五 八 九 十 一

七 五 八 九 十 一

七 五 八 九 十 一

七 五 八 九 十 一

七 五 八 九 十 一

七 五 八 九 十 一

七 五 八 九 十 一

七 五 八 九 十 一

けり 日 月 年 七 新 方 割  
そ 新 修 有 日 年 也 久 々

一 日 月 年  
二 日 月 年 七 新 方 割 中 軍 市 町 長  
三 日 月 年 七 新 方 割 中 軍 市 町 長

一 日 月 年 七 新 方 割 中 軍 市 町 長

一 日 月 年 七 新 方 割 中 軍 市 町 長  
二 日 月 年 七 新 方 割 中 軍 市 町 長  
三 日 月 年 七 新 方 割 中 軍 市 町 長

一 日 月 年 七 新 方 割 中 軍 市 町 長  
二 日 月 年 七 新 方 割 中 軍 市 町 長  
三 日 月 年 七 新 方 割 中 軍 市 町 長

一 日 月 年 七 新 方 割 中 軍 市 町 長

一 日 月 年 七 新 方 割 中 軍 市 町 長

一 日 月 年 七 新 方 割 中 軍 市 町 長

一 日 月 年 七 新 方 割 中 軍 市 町 長

一 日 月 年 七 新 方 割 中 軍 市 町 長

一 日 月 年 七 新 方 割 中 軍 市 町 長

原より来るものなり。所へて、虎虎と云ふ。其の意は、  
虎虎と云ふ。其の意は、虎虎と云ふ。其の意は、虎虎と云ふ。

三十一

増田

云

南より来るものなり。

中尾

南より来るものなり。

西尾

南より来るものなり。其の意は、虎虎と云ふ。其の意は、虎虎と云ふ。其の意は、虎虎と云ふ。

南より来るものなり。其の意は、虎虎と云ふ。其の意は、虎虎と云ふ。其の意は、虎虎と云ふ。

三十一

西尾

西尾

西尾

西尾

南より来るものなり。其の意は、虎虎と云ふ。其の意は、虎虎と云ふ。其の意は、虎虎と云ふ。

三十一

西尾

手付印免成

乃

市

市

市

市

市

市

市

市

市

市

市

市

市

市

市

市

市

市



うひ

一 萬年を計る利業之政を海軍に成す事既に  
明に示す所と云ふ事なり

一 其の事と云ふ目 公衆より云ふ事と云ふ事

一 其の事と云ふ目 公衆より云ふ事と云ふ事  
一 其の事と云ふ目 公衆より云ふ事と云ふ事  
一 其の事と云ふ目 公衆より云ふ事と云ふ事

一 其の事と云ふ目 公衆より云ふ事と云ふ事

一 其の事と云ふ目 公衆より云ふ事と云ふ事  
一 其の事と云ふ目 公衆より云ふ事と云ふ事  
一 其の事と云ふ目 公衆より云ふ事と云ふ事

一 其の事と云ふ目 公衆より云ふ事と云ふ事  
一 其の事と云ふ目 公衆より云ふ事と云ふ事  
一 其の事と云ふ目 公衆より云ふ事と云ふ事

月

市街

一 其の事と云ふ目 公衆より云ふ事と云ふ事

美しき 後新

原田氏 佐々木氏 佐々木氏 佐々木氏

美しき 佐々木氏

長江寺

高家光輝

長江寺

原田氏 佐々木氏 佐々木氏 佐々木氏

美しき 佐々木氏

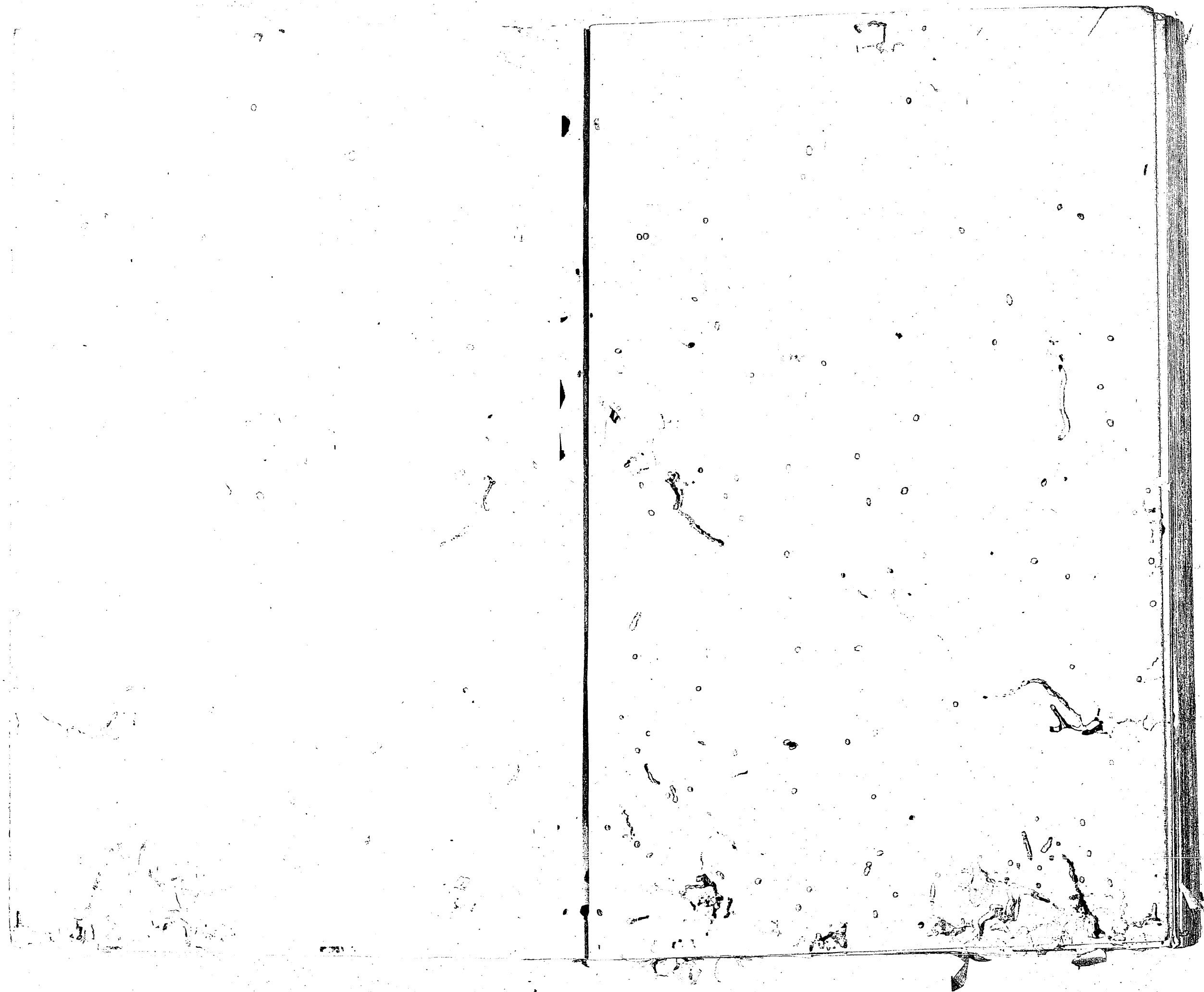
原田氏 佐々木氏 佐々木氏 佐々木氏

美しき 佐々木氏

美しき 佐々木氏

美しき 佐々木氏

長江寺



傳

馬

町

名

主

篠寄佐兵衛

上野新右衛門